

先 德 餘 香

後學南條文雄集記

六字を頭に置ける歌

皆往院鳳嶺贈講師(雲華師の養父)

先父皆往院講師、六字の御名を頭に置いてよめる歌、午霜月録して惠海入道の許へ贈る、尼子にもみせてよろこびたまへ。 不肖雲華院大含

ながき夜の闇路をてらす光きて、稱ふる御名の外にはある。

むら雲のかゝるおりしも月かけの、もるゝは法のめぐみなるらん。

値ひがたき法の查にめぐりあひて、しづみはてたる身をもなげかず。

みがくべき衣のたまはかくろひて、たのむは彌陀のちかひなりけり。

たぐひなき法のちかひのなかりせば、六のちまたをいかでいづべき。

ふしおがむすがたは人にならひても、法にそまぬはこゝろなりけり。

大谷會に詣て

雲華院大含講師

ふしてくむきよき法のみなもこは遠く流れて大谷の水。

貫練堂に額をかゝけたまひければ

練るやそのかすの敎の糸のいろもきよく眞白のわが法の文。

高野の楓見に行て

耳にきゝ心に染し紅地ばのたかを見つるここのうれしさ。

恭敬院母公の二十五の年回によめる

たらちめもたちまじるらん二十あまり、いつゝのかすの世をすくふ人。

眞宗四法歌 (在東京淺草橋場蓮窓寺一所見)

西方如是敎。八萬四千餘。靈瑞華時見。法王嘉會初。如人無行足。匠到涅槃城。獨頼阿彌力。横超六字聲。法海誰能入。何論謗佛徒。聞名忘已處。探獲信心珠。十劫莊嚴土。精微抑爲誰。覺了娑婆夢。花開七寶池。

新 年 作 (弘化二年乙巳時年七十三)

増輝迎佛日。弘化拜王春。念々無量壽。欣々老健身。

庚 寅 (天保二年時年五十八)

折冬先人諱日寫於平安客舍、奉賀家尊兄六十初度

君居父母國。壽福歲華長。弟以他鄉水。描蘭代壽觴。

二 河 譬

遣喚東西岸。人臨水火河。中間通白道。步々念彌陀。

本 念 寺

投宿碧山寺。法聲松樹中。烹茶深井水。齋後坐清風。

庚寅中元前一日祝無違室老主翁七十一

時年方七十。樂只幾兒孫。爲寫南山竹。遙呈壽福門。

客冬越後真光寺觀竹樣香爐盆。奇大可賞歸京後詩以寄題(時年七十六)

古藤盆三足。精工象質當。銅爐宜安頓。細々欲生香。

乙巳夏講正信偈、錄似聽者澄靜

(在東京淺草西照寺所見、澄靜者西照寺先々住也)

寶傷三承命。冥加上講筵。染香々不斷。紅發一盆蓮。

無 題 (和田龍造擬講所錄送)

一托西方教。惠風吹道芽。染香々不斷。珍重信心花。

雙枝蓮圖讚拜引 (在美濃大垣誓運寺所見)

爲具塚山主題、彼家傳曰、天正十一年至十三年、顯如上人滯留此寺、十二年夏、池中生雙枝蓮、其

翌七月移住天滿、元文某年七月十九日、亦並頭花開、是本願寺分派之兆云、其雙枝蓮乾枯者、今尙存矣、頃日山主使來乞詩、乃作之、弘化三年丙午 雲華七十四翁大舍

兩寺原從二寺二分。同根佳種各芳芬。蓮華有兆雙莖秀。卜半池中舊所聞。

信中向源寺煥炤寮司勤修淨業、處世篤實、居恒賑恤窮民、事聞于子官、天保(三年)壬辰冬特旨賀正之禮擢衆、且賜白金若干、以褒賞之、頃入京、使余記其事、隨喜之餘賦一詩、癸巳(天保四年)秋八月、(明治三十年九月二日在信濃上田向源寺所見)

天長地久育民功。我法由來與世同。看得向源僧某甲。邦君一賞報真宗。

癸巳九月訪勝願寺、依壁上同僚日南年兄韻、

(明治三十年八月十六日在越後柏崎勝願寺所見)

寺近米山秋未殘。解裝今日倚闌干。庭前樹石須珍護。會得法王微笑看。

癸巳(天保四年)八月八日、大祖影堂上梁恭記其喜

開山振起是真宗。孝子忠孫化不窮。大道場新輝佛日。諸黎庶服翊皇風。欣然土木看如阜。笑却劔釵枉作叢。奩奩法門功德美。臣民齊頌上梁功。

天保(五年)甲午八月廿五日、辱拜講師(之命)、且懼且喜、願從父入學、

已四十有餘歲、乃似法朋、(在美濃大垣誓運寺所見下同)

一時龍象已兩遷。承_レ乏講師_ニ殊遇全。衆望有_レ緣人遠近。君恩難_レ測海三千。生來僅守篋裘業。老去空羞犬馬年。四十有餘僧謁次。白頭如_レ雪照_ニ經筵。

學寮額式

寶曆開_レ堂誘_ニ學生。仰哉師主代經營。新彫_ニ貫練堂文額。如_レ待_ニ若人工巧明。

奉_レ賀_ニ本師上人(達如宗主)五十初度。

六條佳氣鬱蒼々。土木經營大道場。地接_ニ帝城_ニ仙路近。林隣_ニ台麓_ニ法雲長。將_レ雛鳳見_ニ升平象。獻_レ壽人聞_ニ德澤香。燕雀微臣猶祝賀。頌_ニ成塵點微劫無量。

乙未(天保六年)春三月、祖山影堂落慶、恭賦_ニ此詩。

護_ニ送恩容大道場。金幢彩仗映_ニ影堂。非_レ緣_ニ法德加_ニ威力。那得_ニ經營_ニ墜落慶。日月清明天樂發。雨暘時若妙華香。子來雲衆各稽首。唱起莊嚴淨土章。

除夜作 (弘化元年甲辰、在_ニ美濃大垣誓運寺_ニ所_レ見)

出_ニ離生死_ニ欲_レ歸_レ真。一世因緣亦守_レ倫。不_レ仰_ニ仙丹延壽訣。明朝七十又三春。

示人

佛恩深遠國恩新。頂戴誰能報_ニ一塵。寄_レ語有緣同信奉。莫_レ違_ニ師教_ニ誤_レ斯身。

丙午(弘化三年)元日

一年新似一年新。對鏡人非昔日人。白髮千莖看作雲。梅花瓶下又迎春。

丙午(弘化三年)六月

已經長夏又迎秋。便去三州入尾州。自此平安歸不遠。中元看月上家樓。

智通上座(美濃大牧義順師)承擬講芳命賦贈(弘化四年了未夏)

講場當選足稱師。本是研磨衆所知。東海兒孫今樓指。好來珍重拾珠遺。

戊子(文政十一年)秋七月,奉本師上人之教,教諭山陰道宗徒,逗留石州濱

田顯正寺,寺主請書,錄偶作似之。(明治某年在石見濱田顯正寺所見)

一家和樂世間春。況復多生信佛因。子々孫々長不負。前花後果德成隣。

乙亥(文政十二年)十一月九日夜錄此詩,時梅逸居士所贈瓶梅數花開、

闕餘成歲見花遲。欲問梅溪可及時。笑我急忙來曳杖。春風吹未到南枝。